



平成 27 年 5 月 18 日

2015 55th ACC CM FESTIVAL
各部門 審査委員長からのパワフルメッセージ届けます！

まもなく開催される「2015 55th ACC CM FESTIVAL」の応募概要発表に先駆け、各部門の審査委員長より、各部門の考え方をメッセージにいただきました。

各部門の応募概要やスケジュールなど詳細は、ACC ホームページにて近日発表致しますので、今しばらくお待ちください！

本件に関するお問い合わせ

〒105-0003 東京都港区西新橋2-4-2 西新橋安田ユニオンビル6F

TEL : 03-3500-3261 FAX : 03-3500-3263

www.acc-cm.or.jp

一般社団法人 全日本シーエム放送連盟 担当：平川

◆フィルム部門（テレビ CM 部門より名称変更）

審査委員長：古川 裕也 氏（電通）



誰もいないところに、行こう。

誰もいないところに、宝物は潜んでいる。それは、僕たちに発見されることを望んでいる。すぐれたクリエイティブは、どれも歴史をぬりかえる。今までなかったなにかを、付け加えたものにこそ価値がある。

僕たちは今まで、テレビ CM というひとつの競技の中で、新しい表現を創ってきた。これからはそれに加えて、すべての映像表現というフィールドの中で、競うことになる。

ソリューションの最大の武器は、昔も今も映像コンテンツだ。その中心に CM がある。一部のカンヌの応募ビデオに見られるような上げ底の説明は、そこでは不可能だ。表現そのものの力でヒトを動かす仕事こそ、ACC が発見しなければならない仕事である。理屈抜きに、説明抜きに、みんなをどこか未知なところに連れて行ってしまおうフィルム固有の力を持つ仕事の発見が、今年の審査員の仕事である。

クライテリアは、“Freshness of Idea”
その時、ここが、フィルム部門であることを強く意識したい。

いいニュースがひとつある。
テレビ CM の企画制作で僕たちが培ってきた能力は、実は、とても応用が効く。クライアント課題に映像のアイデアで応えヒトを動かす技術は、まず、CM 以外の映像表現、さらには、クリエイティブリティをエンジンとするすべての仕事に展開できる。それも、そうむつかしくなく。

あ。いいニュースがもうひとつ。
この仕事は、本質的に下剋上である。きのうまでのキャリアも、年齢も、肩書も、知名度も、一本のフィルムの前では、まったく関係ない。いいものを創った女子高校生は、その時、どんな ECD よりえらいのだ。なんてフェアな仕事なんだろう。

テレビ CM という成熟したジャンルをさらに進化させる表現。
新しい場所で創られる新しい映像表現。
ACC が、それを毎年適切に発見できる装置に変貌できたら、
少なくとも、今年の審査委員長は、
とてもハッピーである。

◆ラジオ CM 部門

審査委員長：澤本 嘉光 氏（電通）



とにかく出してみてください。

ラジオの審査委員長を4年もやるとは正直思っていませんでした。今年も審査員の皆さんは、ラジオを作る人も、書く人も、しゃべる人も、放送する人も、聞く人も、みんなラジオ好きでいっぱいです。毎年、審査が本当に楽しい部門になっています。審査が楽しいと、結果も楽しいものになる気がしていてその感覚がラジオの持っている気取らなさなんじゃないかなと思っています。皆で話しながら、面白いもの、何かの芽が見えるもの、いろいろと探して行って、一部の閉じた業界だけで評価されるものではなく聞いた人の多くが喜んでくれるような評価をして行きたいなあと。審査を通じて、いろいろな方向性、や、未来、も、探って行きたいです。とにかく、作ったもの、出してみてください。少なくとも、この審査員の顔ぶれの人たちはその作品を聞きますから。是非、僕らに聞かせてください。

◆マーケティング・エフェクティブネス部門

審査委員長：土橋 代幸 氏（トヨタマーケティングジャパン）



規模は関係ありません。

マーケティング・エフェクティブネス部門は、マーケティングにより素晴らしい成果を上げた企業・自治体・NPOなどを表彰します。優れたマーケティング戦略と効果的なクリエイティブが実行され、それにより生み出された大きな成果までが審査対象です。規模は関係ありません。具体的には、目の付けどころや切り口が斬新かつ時代をリードしているか？という、「優れたマーケティング戦略」が1つ目のポイントです。2つ目は、クリエイティブが課題解決にバシッと寄与したか？という、「効果的なクリエイティブ」についてです。そして3つ目が、戦略とクリエイティブにより「生み出された大きな成果」であることが具体的に示されているか？ということです。これら3つのポイントを、審査します。キラリと光る活動をされた皆さんの、積極的なエントリーをお待ちしています。

◆インタラクティブ部門
審査委員長：北風 勝 氏（博報堂）



もっとぐちゃぐちゃに？！

「領域はインタラクティブ部門ですが、気持ちはACC賞その他全部部門です！」
昨年、ACCインタラクティブ部門の審査委員長を引き受けるにあたって、このように宣言しました。クリエイティブが未来に向かう可能性をすべて引き受けるかのごとき大胆な方針です（笑）。初年度の審査はいい意味で混乱しました。皆が悩み、考え抜き、意見をぶつけ、摩擦しあい、全体としては予想外？の結果が出ました。
今年はどうでしょう。個人的にはさらに「ぐちゃぐちゃ」になってもいいのではないかと考えています。審査員たちが困るもの、悩むもの、あ然とするもの。そんなエントリーがあればあるほど、この部門の未来が見えてくると思うからです。
つい先日のことですが、私が尊敬してやまない大先輩(80代)が若いクリエイターにこう言いました。「矢を放つべき的はどこにだってある時代だろ！」
—そんな時代を体現した元気なエントリーをお待ちしています。

*今年も、多数の「特別賞」を設定し、審査員の予想を超えた「突出したもの」を大いに褒めたいと思っています。バナーやコーポレートサイトなど、一見「広告賞」とは縁がないと思いがちな領域も丁寧に審査し、あらゆるところから、新しい「広告的発明」を見つけ出したいと思っています。ぜひ、積極的な応募をお願いします！